

「被災地内看護職との協働による避難所・仮設住宅・在宅における看護活動（長野班）第五報」

【セミナーアンケート集計結果】

セミナー開催日：2021年3月20日（土） 場所：清泉女学院大学 4F実習室

【結果】

I セミナー参加人数

参加人数 25人 （男性6人、女性19人）

II アンケート回収数と回収率

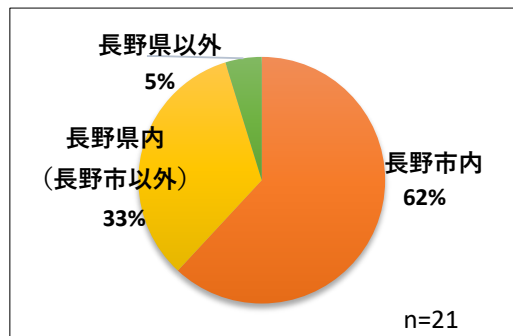
アンケート回収数	21
回収率	84%

III アンケート内容

1. お住まいの地域とご年代等をお聞かせください。

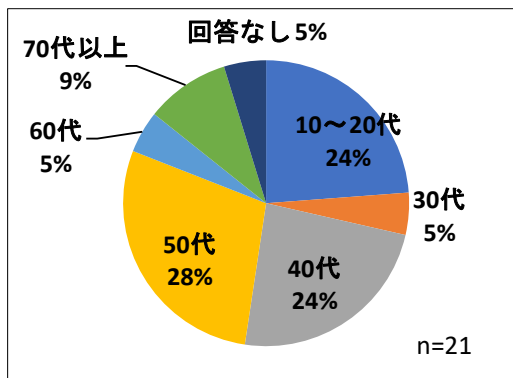
①地域

長野市内	13人	62%
長野県内（長野市以外）	7人	33%
長野県以外	1人	5%



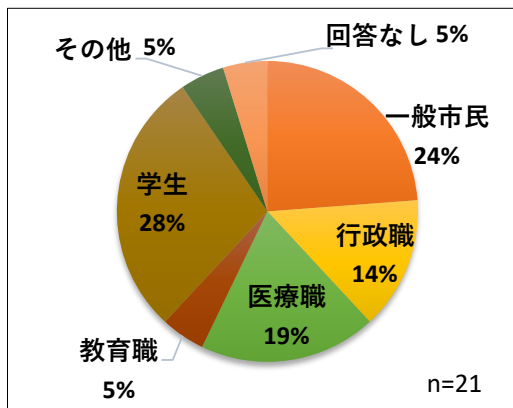
②年代

10～20代	5人	24%
30代	1人	5%
40代	5人	24%
50代	6人	29%
60代	1人	5%
70代以上	2人	10%
回答なし	1人	5%



③職種

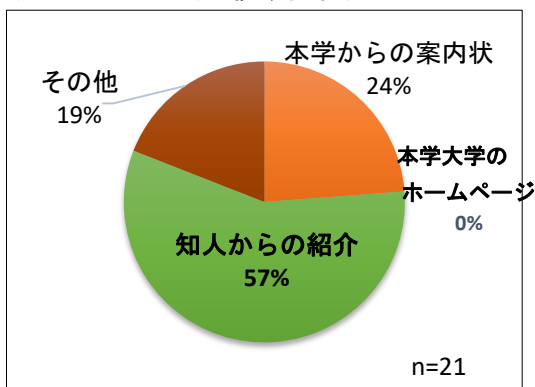
一般市民	5人	24%
行政職	3人	14%
医療職	4人	19%
教育職	1人	5%
学生	6人	29%
その他	1人	5%
回答なし	1人	5%



2. このセミナーについて、どこでお知りになりましたか？（※複数回答）

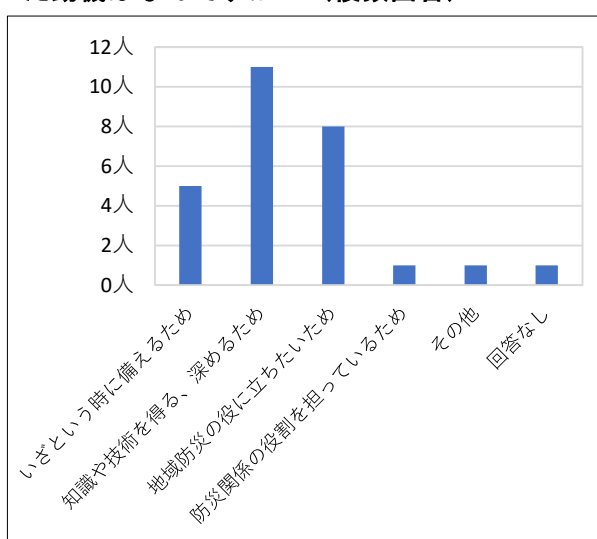
本学からの案内状	5人	24%
本学大学のホームページ	0人	0%
知人からの紹介	12人	57%
その他	4人	19%

その他  
先生、職場で、災害支援ネットワーク



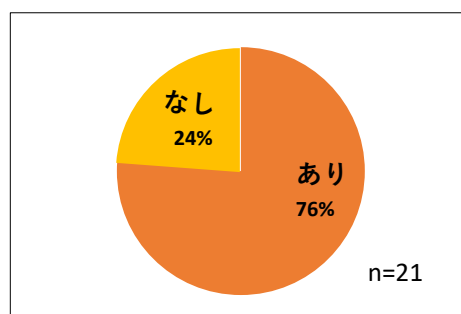
3. 本日のプログラムに参加しようと思った動機はなんですか？（複数回答）

いざという時に備えるため	5人
知識や技術を得る、深めるため	11人
地域防災の役に立ちたいため	8人
防災関係の役割を担っているため	1人
その他	1人
回答なし	1人



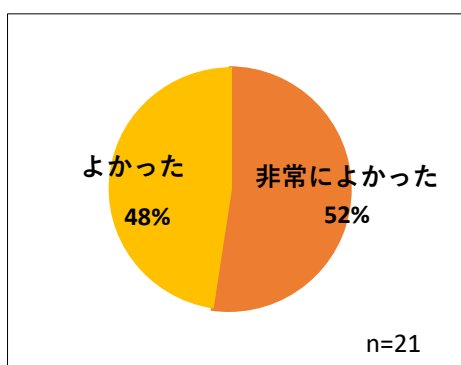
4. あなたは災害支援の経験がありますか？

あり	16人	76%
なし	5人	24%



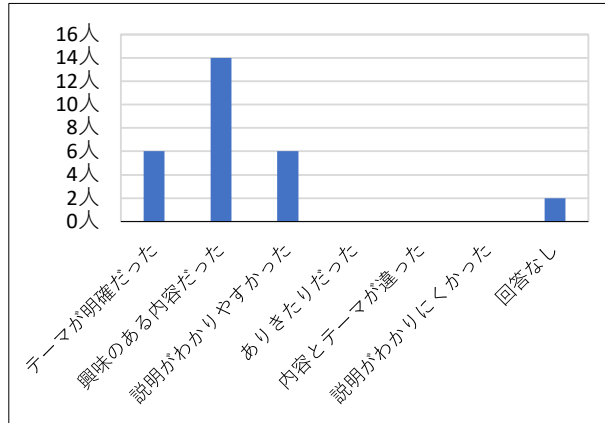
5. 本日のプログラムはいかがでしたか？

非常によかった	11人	52%
よかった	10人	48%
あまりよくなかった	0人	0%
よくなかった	0人	0%



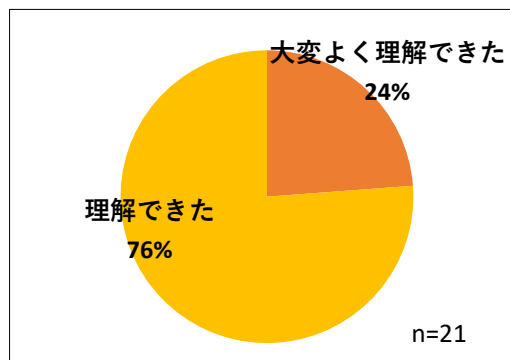
その理由は何ですか？（※複数回答）

テーマが明確だった	6人
興味のある内容だった	14人
説明がわかりやすかった	6人
ありきたりだった	0人
内容とテーマが違った	0人
説明がわかりにくかった	0人
回答なし	2人



6. あなたはDIG(Disaster Imagination Game)の行い方を理解できましたか？

大変よく理解できた	5人	24%
理解できた	16人	76%
あまり理解できなかった	0人	0%
理解できなかった	0人	0%



その理由は何ですか？

- ・手順が思ったより少なくてシンプルだった
- ・ルール（書き方）、手順が明確で見える化できるので、とてもわかりやすく、やってみることができた。
- ・アドバイザーのもと、メンバーで協力してできた。
- ・マニュアルがあり、わかりやすかった。
- ・説明がわかりやすかった。
- ・説明と実際に行っていく中で理解できた。
- ・知らない地域だったが、体験したことを内容に盛り込めたと思う。
- ・地域の特性を知れた。
- ・まず知ることからだったので、すべてを理解できなかったが、たくさんの知識を得ることができた。
- ・少し遅れたので説明の所を聞けなかったが、活動はできた。
- ・実際に見ず知らずの人と話し合いをしながらやってみることで、理解を深められた。
- ・やってみることが大事だった。やっているうちに作業上の問題が出てくる。
- ・大まかに理解できたが、自分の住む地域でも今日のようにDIGを行うことができるかどうか、不安が残った。
- ・図上訓練を何度か体験している。
- ・災害を知ることは必要だ。

## 7. あなたは、実際に地図への情報の書き込みを行ってみてどうでしたか？

- ・非常に危険な地区に住んでいるのだと改めて実感した。
- ・より地域の状況を把握することができた。
- ・自分の地域を知ることができた。
- ・長野市についての理解が深まった。
- ・細い道路や地域の特性など知ることができた。
- ・地域を知ることになりとても良かった。
- ・日頃使っている道路など知っているつもりでも、その周辺などは見過ごしているんだと気がついた。
- ・地域を知ることが重要
- ・平面に色を落とすことでより深く知ることが出来た。
- ・色別可やシールを使用すると見える化してとてもわかりやすい。
- ・わかりやすく勉強できた。
- ・グループの人達のお話を聞きながら、一緒に行って、実際にどんな施設があるのかを見ることで、より災害・防災について考えることができた。地図上だけでは見れないことも知っている人がいることで、危険な所などを知ることができ、よい経験になった。
- ・目で見て、話すことで、実際の地域の状況がわかり、具体的に考えることができた。地区や職場でもやってみたいと思った。
- ・地形の他にも、そこに住んでいる人や物を考えなければならなくて、災害時に備えておくことの大切さを知ることができた。
- ・地元ではなくて、外から入る人間の視点でもって考えながらだった。まずは道路と目標物を覚える感じだった。
- ・実地しながら書き込む方法もあるのではないか。（時間、準備がかかるが）
- ・もう少し大きな地図が欲しかった。地域に関連する情報や写真など判断材料が少しあると書き込み&話し合いがしやすくなると思う。
- ・豊野地区でやってみたかった。
- ・立体的地図。
- ・災害の種別で考えるようにした方がよいと思う。

## 8. その他、ご意見・ご要望・ご質問等がありましたらご自由にお書きください。

- ・このような企画は是非参加させていただきたい。
- ・度々このようなセミナーを開催して下さい。
- ・やり方を覚えるのはよいも、実践に即してやるには、地域の住民に実施してもらう事が必要と思った。
- ・地域の方がいると細かい情報が細くなりわかりやすい。年代別の知識があり、驚いた。
- ・学校や職場などでもやってみたい。効果があると思う。
- ・学生のみで行うより、専門の方や様々な職種の方がいることで異なる視点から意見が出ると思う。専門の方からの話はとても勉強になった。
- ・とても良い経験になった。これから知識や経験を積んで、もっと引き出しを増やしていきたい。
- ・住民ばかりだと当たり前感が出てくるので、外から入ってくる人たちは住民が気づかないことのケアができたらいいい。避難所生活を現状から向上できるように。